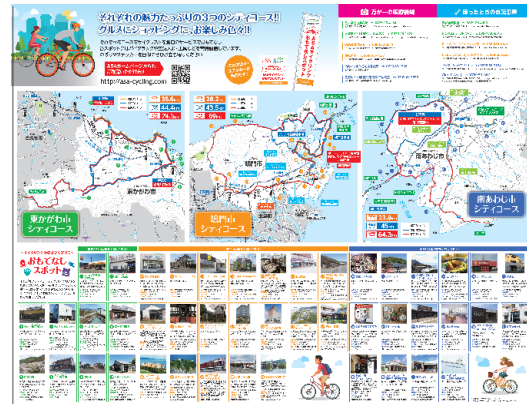



【資料①】地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金実績

No.	交付金対象事業名	事業概要	事業内容	事業費（円）	交付対象経費（円）	重要事業評価指標		
						評価指標	目標値	実績値
1	ASAトライアングル（南あわじ・鳴門・東かがわ）を結ぶ、サイクリングツーリズム推進事業 〈推進交付金〉	現在、しまなみ海道や淡路島において盛んに行われているサイクリングツーリズムを圏域に呼び込むため、南あわじ市と鳴門市の間の自転車輸送の実現をはじめ、3市をつなぐサイクリングロードを設定し、多言語表示板の設置、レンタサイクルなどの環境整備やPRを行うことにより、3市の交流人口を増加させるとともに、サイクリングやランニング等気軽にスポーツに親しむことによる健康づくりと地域経済の活性化を図る。	<p>①平成29年10月より、鳴門海峡の自転車輸送を開始。</p> <p>②「ASAサイクリングコース」の設定。</p> <p>③サイクリストを温かくもてなすための取り組みに積極的な飲食店等19施設を「おもてなしスポット」として指定。</p> <p>④「サイクリングコース」や「おもてなしスポット」を掲載した「ASAサイクリングコースマップ」を製作。</p> <p>⑤ASAサイクリングコースや自治体の魅力について映像を用いて全国的に情報発信するため、PR動画を作成。</p> <p>⑥島田島ハーフマラソンの開催や、鳴門・南あわじ渦潮ファンライドを報知新聞社と共催で行うなど、関連イベントを実施。（ハーフマラソン参加者1,344人、ファンライド参加者410人）</p>	39,227,406	39,227,406	<p>①3市の交流人口増加数</p> <p>②南あわじ・鳴門間を渡った自転車台数</p>	<p>①6,000</p> <p>②2,000</p>	<p>①498</p> <p>②88</p>




サイクリングコースマップ

【資料①】地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金実績

No.	交付金対象事業名	事業概要	事業内容	事業費（円）	交付対象経費（円）	重要事業評価指標		
						評価指標	目標値	実績値
2	「四国のゲートウェイ化」推進事業（四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略） <推進交付金・拠点整備交付金>	<推進交付金分> 本市が名実ともに四国のゲートウェイとなるため、四国の食、祭り、文化等を紹介するイベントや本市の魅力を発信する広報、市内の幹線道路に、民間事業者等と協力し、産直市や観光案内施設、休憩所などを交流拠点施設として整備できる環境づくりを行う。	①「四国のゲートウェイ拠点施設整備基本計画検討委員会」を開催し、今後の方針や基本計画の策定に向けた提言を取りまとめた。 ②「四国の肉グルメ&祭りフェス」や「NARUTO ART GATE ILLUMINATION 2017」など、県内外からの集客を図るイベントを実施。（肉フェス来場者数15,000人、イルミ来場者数23,000人） ③「光の門」として、「NARUTO ART GATE ILLUMINATION 2017」で使用したガラスモニュメントと空間デザインを鳴門駅前足湯横に設置。 ④鳴門市プロモーション動画「鳴門たび」を作成し、県内外に情報発信を実施。	71,313,623	71,313,623	<県全体> ①5年間の延べ宿泊者の増加人数（万人） ②5年間の外国人延べ宿泊者の増加人数（万人）	①185 ②15	①△52 ②7
		<拠点整備交付金分> 本市にとっての交通の要衝であり、観光の拠点ともなっている、JR鳴門駅について、駅前ロータリーをお遍路やドイツ館、渦潮など鳴門の名所等を紹介することを目的とした整備を行い、またバス停改修、休憩所の設置、足湯、レンタサイクルを設置し、さらに駅舎北側テナントスペースを案内所及びアンテナスペースとして整備することで、駅前の景観改善と利便性向上、本市の情報発信と地場産業紹介拠点とする。	①平成28年度に策定した実施設計に基づき、駅前ロータリー改修工事に着手し、バス停改修、休憩所・足湯の設置、観光案内所の整備を完了。 ②ロータリー南側の一部について平成30年度に繰越。	 <p style="text-align: center;">足湯</p>	66,526,584	63,779,400	①テナント利用者数 ②レンタサイクル利用者数	①— ②—

【資料①】地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金実績

No.	交付金対象事業名	事業概要	事業内容	事業費（円）	交付対象経費（円）	重要事業評価指標		
						評価指標	目標値	実績値
3	「なると第九」及び板東俘虜収容所の歴史を活用したローカルブランディングの推進事業 ＜推進交付金＞	本市では、「アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト」を策定しており、その中で産学官民連携のもと、各種取組を実施する。具体的には、「なると第九」のブランド化を促進するユネスコ世界記憶遺産への登録推進や演奏会の実施、「なると第九」を活用したツアー開発や土産品・グッズ開発などの実施による周知啓発、「なると第九」100周年に向けた準備と100周年でのイベント開催などを実施する。	<p>①観光産業化推進（FMラジオ番組制作、桂文枝「なると第九」創作落語公演、ウォーキングイベント開催、「なると第九」記録動画撮影、イルミネーション設置等）</p> <p>②次世代育成（幼小中での「なると第九」現地学習・歴史学習・合唱講習、ジュニア演奏会実施準備）</p> <p>③啓発PR（小中での映画「バルトの楽園」上映、巡回パネル展開催、県内外イベントでのPR活動、広報啓発グッズの作成配布等）</p> <p>④演奏会実施（文化会館演奏会、大塚国際美術館演奏会、アフター交流会）</p> <p>⑤収容所跡地環境向上（ドイツ村公園周辺除草剪定）</p> <p>⑥ユネスコ「世界の記憶」のための推進事業（収容所開所100周年イベントの開催、資料の整理・台帳作成、資料調査検討委員会開催（県教育委員会と共同）、資料保存管理調査検討会開催、「保存管理計画」策定作業開始、所蔵資料のレプリカ作成、企画展示・講演会の開催）</p>	33,367,461	30,263,845	<p>①ドイツ館周辺に来る観光客増加数</p> <p>②第九を歌える園児・学生の人数</p>	<p>①10,000人</p> <p>②500人</p>	<p>①13,829人</p> <p>②1,458人</p>
				演奏会				